別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係）

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（平成28年度報告・再評価分）

静岡県

1　被害防止計画の作成数、特徴等
　本県では、33市町で被害防止計画が策定されている。
　市町は、被害の軽減目標を達成するため、侵入防止柵の整備、有害捕獲、被害防止研修会等を実施している。

2　事業効果の発現状況
　市町は侵入防止柵の整備や購入したわなを活用した有害捕獲活動及び有害捕獲活動に対する直接支援、緩衝地帯整備による隠れ場所を無くす取組等を実施したことにより、有害鳥獣による農林産物被害はピークであった平成21年度から減少した。

3　被害防止計画の目標達成状況
　27年度を目標を達成できなかったため、28年度で再評価を行ったが、金額、面積とも全ての対象鳥獣で目標を達成したのは沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会のみであった。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 基準値	目標値	実績値	達成率	被害面積（a） 基準値	目標値	実績値	達成率	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	沼津市	平成27年度	イノシシ シカ	推進事業（有害捕獲） 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	デジタル簡易無線機30台 有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）124頭、（幼）18頭 ・シカ（成）58頭				・デジタル簡易無線機により、有害捕獲の効率的な実施が可能になった。 ・有害捕獲活動への支援により、鳥獣の目撃情報や農作物被害の相談件数が減少し、被害の軽減に寄与した。	イノシシ15,700 シカ23,500	10,990 16,450	9,020 9,600	142% 197%	イノシシ565 シカ750	395 525	380 323	109% 190%	電気柵の普及、農家（わな免許取得者）自身による畑付近での捕獲活動、デジタル無線機の導入による効率的な捕獲の実施により、被害金額及び被害面積を大幅に減少させることができた。併せて、人的被害の発生防止のための捕獲活動も随時実施し、1年を通して意味のある捕獲活動ができた。 　しかしながら、近隣の他市町と比較して当市の被害金額、被害面積は大きい。この状況を改善していくためにも、引き続き住民に「自分の畑は自分で守る」という意識を植え付けていく。 また、防護柵等の管理が適切でなく、効果を最大限に発揮できていないことが多いため、今後は設置後の管理方法についても指導していく。	捕獲や電気柵の設置が一定の効果を上げたと推察される。今後については、これまで実施してきた対策に加え、耕作放棄地の解消や放任果樹の伐採等の生息環境管理を行うことで、総合的に鳥獣被害対策に取り組むことを期待する。（静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	被害金額、被害面積とも、再評価において目標が達成できた。引き続き、本交付金を効果的に活用して、さらなる被害の減少に向けて取組を進めて欲しい。
あいら伊豆広域有害鳥獣対策協議会	熱海市	平成25年度～27年度	イノシシ ニホンジカ サル ハクビシン	推進事業（有害捕獲、被害防除） 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	くくりわな308基 箱わな ・大型獣類用3基 ・小型獣類用35基 防護柵モデルほの設置実証 有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）250頭、（幼）33頭 ・シカ（成）371頭 ・ハクビシン10頭 ・タイワンリス15頭				・従事者の要望から、くくりわなの拡充に力を入れると共に、狩猟期付近にくくりわなの講習会を実施し、新規にわな免許を取得した農業者を対象に、技術の普及に努めた。その結果、農業者でわな免許を取得する者が年々増加し、自らの農地を自らが守る仕組みの普及が進んだ。従来使用していたくくりわなの他に、新しいタイプのくくりわなを購入し、従事者の止め刺し時の危険性を軽減させる効果が期待できる。 ・農業者自らがサル、ハクビシン対策用の防護柵を設置し、モデル展示圃として活用を図った。このことにより、農業者が防護柵の設置ポイントを学ぶことができ、農業者個人の鳥獣被害対策に対する取組み意識の向上に繋がった。また、周辺地域住民には、鳥獣被害に対する理解を深めてもらうことができた。 ・有害捕獲活動への支援により、農作物被害軽減に寄与した。	イノシシ2,400 シカ24 サル140 ハクビシン360	1,680 16 98 252	1,835 599 120 399	79% ▲ 7,188% 48% ▲36%	イノシシ847 シカ50 サル231 ハクビシン175	592 35 161 122	540 75 104 273	120% ▲167% 181% ▲185%	平成25年度に防止計画を見直し、平成27年度を最終目標に数値の達成を目指したが、被害が増加し、目標達成には至らなかった。 ニホンジカについては、水稲の被害が増加し、イノシシについても、いも類の被害が大幅に増えてしまい、全体的に被害額、被害面積ともに増加してしまった。 未だに農家の方は被害が発生すると、早く捕獲を実施するよう市に対して依頼をしてくることが多いが、被害の原因のほとんどが不十分な防護柵の設置方法、管理方法である。防護柵の設置箇所については市の補助金もあり、また、防護に対しての各農家の意識も高いため、市内全体で設置はされているが、正しい守り方が徹底出来ていない。捕獲に関しては捕獲隊や市職員の直接対応やICT付囲いわな等も活用し、計画的な捕獲が出来ている。また、安全対策として、市としても捕獲従事者に対し、射撃研修の継続的な開催、銃やわな捕獲のマニュアルの作成、安全講習会も開催し、より安全で効率的な捕獲の徹底を実施している。わな免許取得補助金も平成27年度から開始し、また、初心者に対しては技術講習会も開催し、新たな従事者の確保にも努めている。 今後、正しい被害対策の普及啓発の研修会を繰り返し開催し、捕獲に頼るばかりでなく、農家、住民自らが被害に遭わせない地域づくりを目指していけるようさらなる支援をする。	ニホンジカの被害対策として、防護柵の設置は有効であるが、被害が隣接するほ場に移る可能性が高い。市として被害を軽減するためには、被害を受けている農家だけでなく、集落の住民に対して、被害対策の意識啓発を行ってほしい。 また、ハクビシンの被害が拡大しているため、防護柵の種類については、加害獣種を判別した上で、検討してほしい。（静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	シカの被害が減少していないことに加え、ハクビシンの被害の増加が著しい。特に被害金額は全ての鳥獣で達成していないので、対策の強化が急務である。

伊豆市鳥獣被害防止対策協議会	伊豆市	平成25年度～27年度	イノシシ シカ	整備事業（鳥獣被害防止施設の整備）	湯ヶ島茅野地区 金網柵565m 大平柿木（大野）地区 ワイヤーメッシュ柵1,242m 大平柿木（赤崩）地区 ワイヤーメッシュ柵1,724m	茅野地区鳥獣被害防止対策組合 大平柿木（大野）地区鳥獣被害防止対策組合 大平柿木（赤崩）地区鳥獣被害防止対策組合	H26.3.10 H27.3.16 H28.3.1		100%	耕作者自らが防護柵を設置し、鳥獣の侵入防止することができ、被害を防止出来ている。	イノシシ18,170 シカ41,780	12,710 29,240	43,450 75,300	▲463% ▲267%	イノシシ620 シカ1,400	430 980	1,620 1,940	▲526% ▲129%	平成25年度に防止計画を見直し、平成27年度を最終目標に数値の達成を目指したが、被害が増加し、目標達成には至らなかった。ニホンジカについては、水稲の被害が増加し、イノシシについても、いも類の被害が大幅に増えてしまい、全体的に被害額、被害面積ともに増加してしまった。未だに農家の方は被害が発生すると、早く捕獲を実施するよう市に対して依頼をしてくることが多いが、被害の原因のほとんどが不十分な防護柵の設置方法、管理方法である。防護柵の設置箇所については市の補助金もあり、また、防護に対しての各農家の意識も高いため、市内全体で設置はされているが、正しい守り方が徹底出来ていない。捕獲に関しては捕獲隊や市職員の直接対応やICT付囲いわな等も活用し、計画的な捕獲が出来ている。また、安全対策として、市としても捕獲従事者に対し、射撃研修の継続的な開催、銃やわな捕獲のマニュアルの作成、安全講習会も開催し、より安全で効率的な捕獲の徹底を実施している。わな免許取得補助金も平成27年度から開始し、また、初心者に対しては技術講習会も開催し、新たな従事者の確保にも努めている。今後、正しい被害対策の普及啓発の研修会を繰り返し開催し、捕獲に頼るばかりでなく、農家、住民自らが被害に遭わせない地域づくりを目指していけるようさらなる支援をする。	妥当な評価である。伊豆市鳥獣被害防止対策協議会は、平成20年7月に伊豆市、伊豆市有害鳥獣捕獲隊、農協等を構成員として設立され、これまで、伊豆市有害鳥獣捕獲隊を中心とした捕獲活動のほか、侵入防止柵の設置やセンサーカメラを使った侵入状況調査、野性鳥獣の行動実証、集落を対象とした鳥獣被害対策勉強会の開催等、様々な手法で有害鳥獣対策に取り組んできており、一定の効果を得ている。今回、評価報告時点での達成率では目標に届かなかったが、これまでに積み上げて来た貴重な経験を基盤として、今後は、総合評価にあるように、農家、住民自らが被害に遭わない地域づくりを目指し、正しい防護柵の設置方法や管理方法の指導を初め、さらに効果的な防護柵設置支援等に取り組むとともに、今年度設置した鳥獣被害対策実施隊を中心としたさらなる捕獲圧の強化に努められたい。（志太榛原農林事務所地域振興課　主幹　三浦孝夫）	昨年度より被害が減少しているものの、目標が達成できていない。本年度から鳥獣被害対策実施隊を設置したので、被害対策の強化に期待したい。
清水町 （清水町鳥獣被害防止対策協議会）	清水町	平成27年度	イノシシ シカ	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）3頭 ・シカ（成）1頭					被害金額減少において一定の効果を得ることができた。	イノシシ50 シカ0	35 0	25 20	167% –	イノシシ5 シカ0	3 0	10 5	▲250% –	被害面積及び金額が拡大している。猟友会を中心とした有害捕獲環境を整備するため、28年度に無線及び箱罠の整備を行ったが、導入時期が遅かったため、捕獲数増加に至らなかった。その他、目標未達成の要因として、出没可能性箇所等の情報啓発が不十分であった点が挙げられる。情報収集においては、報告の呼びかけによって、新たにハクビシンの被害情報を得ることが出来た。今後、継続した捕獲活動により、新たな被害の抑止を進めると共に、目撃情報や被害情報等の蓄積をしつつ、被害防止の啓発活動を進めていく必要がある。	まだ被害が少なく、被害金額や面積は変動があるので事業の評価は難しい。総合評価のとおり、被害発生の情報を迅速に集め、被害防止の啓発活動を進めていくことを期待する。（静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター上席研究員　水井陽介）	被害防止計画策定時には無かったニホンジカによる被害が発生している。捕獲だけでなく、総合的な被害対策に本事業を有効に活用されたい。
富士宮市鳥獣被害防止対策協議会	富士宮市	平成25年度～27年度	イノシシ サル ハクビシン カラス	推進事業（有害捕獲、被害防除） 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	くくりわな228基 箱わな 小型獣用7基 カラス用12基 シカ用囲いわな サル用囲いわな センサーカメラ 埋設用重機借上 防護柵モデルほの設置実証 有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）85頭・（幼）1頭 ・シカ（成）812頭・（幼）27頭 ・サル（成）25頭、（幼）1頭					・鳥獣被害対策実施隊を中心にくくりわなを貸与し、捕獲の促進に寄与した。 ・ハクビシンやカラス等により農作物に被害を及ぼしていたが、わなによる捕獲が有効に講じられた。 ・シカの移動阻止と捕獲を目的に誘導柵を設置し、落し扉及び感知器をセットし、シカを捕獲した。 ・サルの行動範囲がわかり、群れでの捕獲にも成功し、サルの捕獲が促進された。 ・捕獲個体の処分を効率的に行うことができた。 ・防護柵の技術実証を通して、効果的な柵の設置を進めた。 ・有害捕獲活動経費への支援により有害捕獲の促進が図られた。	イノシシ496 シカ10,418 サル40 ハクビシン0 カラス–	396 7,292 32 0 –	1,305 7,438 1,000 3,200 0	▲809% 95% ▲12,000% 0% –	イノシシ– シカ74,980 サル– ハクビシン– カラス–	- 52,486 - - -	58 10,068 120 100 0	— 289% – – 0%	ニホンジカについては、近年の対策が功を奏しており、被害を軽減することができている。イノシシについては、近年、被害は減少傾向にあったが、平成28年度の野菜への被害が急激に増加した。これについては原因が不明である。いずれにしても、被害低減のために電気柵等の利用や緩衝地帯設置を着及するものである。サルについては、更なる被害防止のため平成28年度には被害地域の住民を対象とした鳥獣被害対策の担い手育成研修会を開催し、講師として招いた古谷益朗・埼玉県農林総合研究センター防除担当部長の講義と鳥獣被害対策実施隊の風岡正則隊長による箱わなの設置方法や花火を使用した追払い方法等の実習を行い被害地域全体での被害対策の取り組みを考証してもらった。この事により平成27年度に比べ、被害を抑止することができた。引き続き地域一体での被害防止を図っていく必要がある。また、箱わなによる捕獲について実証実験をした結果、効果がみられなかった。平成27年度に設置した落し穴式囲いわなによる成果もあるものの、日が経過するごとにサルが警戒してしまう問題やエサの確保に課題がある。サルの捕獲については更なる検証が必要である。ハクビシンについては、実施隊の捕獲活動へ位置づけることを検討しているが、いまだ実現にいたってはいない。被害防止のためには電気柵等の被害防護柵が有効であり、市単独補助金の利用を含め、周知を徹底する。	妥当な評価である。富士宮市では、平成26年4月に鳥獣被害対策実施隊を設置し、協議会、猟友会等が連携して有害捕獲活動を展開しており、大きな成果を上げている。特にシカでは、設置前と比べて捕獲頭数は約2倍で推移し、被害も着実に軽減されてきており、被害防止計画の目標も達成されている。また、市（協議会）では、捕獲活動と並行して、シカ、イノシシ、サルの被害対策用防護柵（電気柵・金網柵）の設置やサルの追い払い実習、各種研修会の開催等、様々な被害防除対策にも取り組んでいる。シカ以外の獣種で被害の増加が見られるものの、これまでの対策の効果は現れてきており、今後は、被害増加の原因を探るとともに、引き続き、捕獲と防除を組み合わせた住民参加型の対策を推進し、被害の軽減を図られたい。（志太榛原農林事務所地域振興課　主幹　三浦孝夫）	鳥獣被害対策実施隊による捕獲の強化によりシカの被害は順調に減少している。しかしながら、他の鳥獣種の被害は増加し、目標を達成できていないので、シカ以外の鳥獣の対策の強化が必要である。
藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	藤枝市	平成27年度	イノシシ シカ サル ハクビシン アナグマ カラス	推進事業（生息環境管理） 緊急捕獲活動支援事業	緩衝帯の整備 有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）235頭、（幼）177頭 ・シカ（成）3頭 ・サル（成）5頭 ・ハクビシン12頭 ・アナグマ4頭 ・カラス34羽					・農作物に被害を与える有害鳥獣を適正な個体数に近づけることができた。 ・農作物に被害を与える有害鳥獣の棲み処となる草木の刈り払いにより、農地に有害鳥獣が出にくい環境にすることができた。	イノシシ17,498 シカ- サル- ハクビシン2,537 アナグマ- カラス2,415	12,000 – – 1,700 – 1,600	13,973 0 120 821 – 296	64% – – 205% – 260%	イノシシ5,789 シカ- サル- ハクビシン576 アナグマ- カラス328	4,000 – – 400 – 200	1,215 0 21 142 – 52	255% – – 246% – 215%	鳥獣被害を防ぐためには、有害鳥獣の捕獲、生息環境管理、侵入防止柵の設置の三つの要素が必要になる。その中で本協議会により有害鳥獣の捕獲と生息環境管理に関する事業を実施した。このことにより、有害鳥獣の個体数が適正な数に近づき、生息環境を整備することができた。農作物被害の目標は、イノシシについては目標を達成できなかったが、生息環境管理を行った花倉地区では、猟友会よりイノシシの目撃が減ったとの声があり、効果は得られている。被害を減らすために今後も同事業を継続していく必要がある。またサルについては、平成28年度実績値で120千円、21aの被害があったが、捕獲を行うとともに、地元農家や猟友会による追い払いを実施し、効果的な被害防止対策を行うことができた。鹿については、被害はなかったが、捕獲を行い適正な数へ近づけることができた。	草木の刈り払いやサルの追い払いにより、有害鳥獣の侵入しにくい環境を整備することで、被害の軽減につなげることができたと推測される。今後も集落が一体となって対策に取り組むことを期待したい。（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	イノシシの被害は基準年より減っているものの、まだまだ深刻である。引き続き、本交付金を活用し、総合的な被害対策に取り組んで欲しい。また、サル被害が新たに発生しているので、まずは研修等による正しい知識の普及に努めて欲しい。、

掛川市有害鳥獣被害防止対策協議会	掛川市	平成27年度	イノシシ	推進事業（有害捕獲）	イノシシ用箱わな20基				新たな被害発生地域など、有害鳥獣捕獲に対応できない地域に対しても、箱わなの貸し出しを行い、捕獲がより広範囲で実施できるようになった。	イノシシ10,090	7,063	9,400	23%	イノシシ1,711	1,198	1,400	61%	平成28年度には、27年度に導入した箱わなを活用し、新たな被害発生地域など、有害鳥獣捕獲に対応できない地域に対しても、箱わなの貸し出しを行い、捕獲がより広範囲で実施できるようになった。それにより約150頭の捕獲ができ、市全体の捕獲実績も672頭で、27年度と比べ277頭増加した。一方、被害防除についても、侵入防止柵への設置費助成などにより、住民の被害防止対策への意識向上を図った。イノシシの捕獲については必要に応じて実施しており、捕獲頭数は増加したが、新たな箇所においても被害が確認されており、被害面積・金額の抑制はできたが、減少していない状況で、目標の達成状況は不十分であった。今後、被害が広がって	鳥獣被害対策は捕獲や防護柵の設置による予防対策の他、耕作放棄地の解消等の生息環境対策を組み合わせた総合的な対策を行うことが被害の軽減につながる。集落において獣の餌となる放任果樹や野菜残さの他、獣の隠れ場所となる耕作放棄角解消も合わせて行って欲しい。また、防護柵については適切な管理や設置を行わなければ、十分な効果を発揮することが難しいため、合わせて指導願いたい。（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	昨年度に比べて被害が減少していない。イノシシ対策の見直しが必要である。
掛川市（掛川市有害鳥獣被害防止対策協議会）	掛川市	平成27年度	イノシシ シカ ハクビシン アナグマ カラス	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）150頭、（幼）245頭 ・ハクビシン15頭 ・アナグマ10頭 ・カラス17羽				・目撃情報や被害情報が広範囲かつ年間にわたっていることから、効果的に有害鳥獣を捕獲できるよう、実施時期をほぼ年間を通してとし、捕獲許可区域を広範囲として捕獲駆除を強化してきた。捕獲数については、イノシシは減少、アナグマは前年並みとなったが、ハクビシン及びカラスについては増やすことができた。	イノシシ10,090 シカ0 ハクビシン− アナグマ− カラス400	7,063 0 − − 280	9,400 240 − − 1,000	23% − − − ▲500%	イノシシ1,711 シカ0 ハクビシン− アナグマ− カラス20	1,198 0 − − 14	1,400 30 − − 60	61% − − − ▲667%	平成28年度も緊急捕獲活動支援事業を実施し、目撃情報や被害情報が広範囲かつ年間にわたっていることから、効果的に有害鳥獣を捕獲できるよう、実施時期をほぼ年間を通してとし、捕獲許可区域を広範囲として捕獲駆除を強化してきた。28年度の有害捕獲実績は、イノシシ成獣273頭、幼獣399頭、アナグマ15頭、ハクビシン17頭、カラス22羽で、27年度と比べそれぞれイノシシ成獣123頭、幼獣154頭、アナグマ5頭、ハクビシン2頭、カラス5羽増加した。経費の支援により捕獲活動を行う猟友会との協力体制が強化された。イノシシについては27年度に導入した箱わなの活用の効果があったものと思われる。捕獲については必要に応じて実施しており、捕獲頭数は増加したが、新たな箇所においても被害が確認されており個体数が増加していると思われるため、被害面積・金額の抑制はできたが、減少していない状況で、目標の達成状況は不十分であった。ニホンジカは稲作の被害を確認しており、新たに北部山間地域で植林の被害情報もある。現状は捕獲機材の整備が十分でないため個体数を減らせず、被害が発生してきている。カラスは南部海岸域で被害が確認されているが、銃猟免許保持者の高齢化、新規取得者がいない状況であり、捕獲数の大きな増加が見込めない状況で、被害の増加につながっていると思われる。アナグマ・ハクビシンについては、捕獲の効果により今のところ数量的な被害報告はない。一方、被害防除については、侵入防止柵への設置費助成などにより、住民の被害防止対策への意識向上が図られた。今後、イノシシについては被害が広がっていくことも懸念される。また、ニホンジカ、カラスについては被害が増加しており対策の強化が必要である。そのため、森林組合、猟友会等関係機関と連携しながら被害状況の調査、捕獲機材の整備、設置箇所等について検討していくことが必要である。また、アナグマ、ハクビシンについては、南部地域で被害情報があり、被害金額の発生が懸念される。そのため、引き続き、捕獲と防除の両面で被害防止対策を推進していく。	鳥獣被害対策は捕獲や防護柵の設置による予防対策の他、耕作放棄地の解消等の生息環境対策を組み合わせた総合的な対策を行うことが被害の軽減につながる。集落において獣の餌となる放任果樹や野菜残さの他、獣の隠れ場所となる耕作放棄角解消も合わせて行って欲しい。また、防護柵については適切な管理や設置を行わなければ、十分な効果を発揮することが難しいため、合わせて指導願いたい。（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	昨年度に比べて被害が減少していない。イノシシ対策を中心に見直しが必要である。
森町有害鳥獣対策協議会	森町	平成26、27年度	イノシシ シカ	推進事業（有害捕獲、被害防除） 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	イノシシ用箱わな11基 センサーカメラ 被害防除研修会 有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）80頭、（幼）127頭 ・シカ（成）18頭、（幼）1頭				・箱わなの設置場所が11基増加し、その捕獲実績もイノシシ39頭と、効果的な捕獲につなげられた。 ・被害地区の地域住民に対し、鳥獣を寄せ付けない集落環境づくりや防護柵の正しい設置方法等を研修し、地域のリーダーの育成、知識向上が図られた。 ・カメラ映像から加害動物の特定や状況が把握でき、効果的な防除対策に取り組むことができるようになった。 ・被害防除研修会を開催し有害鳥獣の生息状況をあらためて認識した上で、侵入防止の電気柵等を正しく使って防除することを住民に周知し正しく設置することができた。 ・有害捕獲数が増え、捕獲活動が強化できた。	イノシシ5,237 シカ200	3,500 140	6,646 491	▲81% ▲485%	イノシシ1,226 シカ500	820 350	195 13	254% 325%	平成27年度の評価においては、被害金額の目標達成ができなかった。平成28年度は、被害防除体制の強化のため、町北部地域でも被害防除のための研修会を開催した。被害地区住民の意識啓発や被害防除方法の指導を行ったことにより、適切で効果的な被害防除方法の知識を広めることができた。また、電気柵等の防護柵設置の助成制度の広報に努め、町単独の電気柵等購入補助金の申請数も増加し、防護柵の設置促進が図られた。捕獲対策については、ニホンジカの捕獲数を増加させるため、シカ用箱わなの購入による捕獲機材の増加と緊急捕獲活動支援事業の活用により、27年度の19頭から24頭へと捕獲数を増やすことができた。また、イノシシは、平成26年度に捕獲機材を増加させたことにより、捕獲数が平成27年度に144頭、平成28年度には212頭と、成果があった。緊急捕獲活動支援事業の活用により、捕獲数が27年度に比べ約3割増加し、有害捕獲活動が強化でき、被害発生の抑制に繋げられた。その結果、平成28年度の被害金額は、イノシシ、ニホンジカとも前年度に比べ減少し、達成率はやや改善したが、目標達成までには至らなかった。 今後も引き続き被害を減少させるため、電気柵等の防護柵設置促進、有害鳥獣捕獲従事者への捕獲機材の貸与による機材の有効活用や、緊急捕獲活動支援事業を活用し捕獲活動経費を支援することにより、有害捕獲活動を強化するとともに、研修会で住民への意識啓発を図り、被害金額の減少に繋げる。	総合的に鳥獣被害対策に取り組むことで、一定の効果を上げることができたと推察される。引き続き、鳥獣被害対策に取り組むことを期待する。（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	被害面積は減少しているにもかかわらず、被害額が増加している。昨年度より被害は減少してものの、目標は達成できなかった。対策の見直しが必要である。

浜松地域鳥獣被害対策協議会	浜松市	平成25年度～27年度	イノシシ シカ サル カモシカ ハクビシン タヌキ アライグマ アナグマ ノウサギ カラス	推進事業（有害捕獲、被害防除、生息環境管理） 整備事業（鳥獣被害防止施設の整備）	捕獲技術講習会 モデル集落実証ほ防除技術導入研修 被害集落環境診断 侵入防止柵の整備 ・ワイヤーメッシュ柵28km ・電気柵54.6km	地元住民	H26.3.4 H26.3.18 H26.3.19 H26.11.4 H27.3.3 H27.3.17 H28.2.12 H28.3.7 H28.3.9	100%	・集落住民が自主的に防護柵の設置や餌場を減らすなど、効果の上がる費が被害対策に取り組み始めた。 ・センサーカメラを活用して加害獣調査や防護柵効果を研修することにより、適切な対処ができた。 ・イノシシ及びシカの侵入が阻害され、被害報告が大幅に減少した。	イノシシ32,266 シカ5,600 サル7,292 ﾊｸﾋﾞｼﾝ・ﾀﾇｷ・ｱﾗｲｸﾞﾏ・ｱﾅｸﾞﾏ5,894 ノウサギ141 カラス2,356	25,812 4,480 5,833 4,715 113 1,884	30,916 8,494 608 4,733 0 274	21% ▲258% 458% 99% 504% 441%	イノシシ7,941 シカ2,840 サル9,968 ﾊｸﾋﾞｼﾝ・ﾀﾇｷ・ｱﾗｲｸﾞﾏ・ｱﾅｸﾞﾏ2,213 ノウサギ26 カラス616	6,352 2,272 7,974 1,770 21 492	6,991 719 23 882 0 1,700	60% 373% 499% 301% 520% ▲874%	イノシシとシカの被害が大半を占めており、被害金額は昨年比で増加した。野生動物が従来餌場にしていた圃場が、防護柵の設置により侵入できなくなったため、これまで被害が少なかった地域に生息域が変動したこと、花木など販売単価が高い作物の圃場を荒らすようになったことが要因として考えられる。被害防止には、防護柵など確立された手法があるが、経費・労力等の観点から、誰もが同様に進めることは難しい。防護柵の設置推進は今後も継続するが、被害減少には餌場をなくし、人馴れさせないなど野生動物を寄せ付けにくい集落を確立することが重要であると考える。平成29年度より、浜松市では鳥獣被害対策実施隊を設立した。実施隊員には集落住民も含まれているため、今後は隊員が核となり、住民に対し被害対策への関心を高め、正しい理解の下、継続的に対策が進められるよう工夫していく。	妥当な評価である。事業の実施主体である浜松地域鳥獣被害対策協議会は、平成22年度の設立当初から被害が報告されている市内の数箇所にモデル集落を指定して（毎年度2～4集落を追加）、防護柵の設置・管理、サルの追い払い活動、放任果樹の除去、農地等の作物残さの適正処分などを集落ぐるみで実施し、住民による実践可能な取り組みの定着を推進してきている。その他、同協議会は、大規模防護柵の設置や各種研修会の開催、モンキードックの導入など様々な手法を用いて被害対策に取り組んでいる。長年の対策が功を奏し、被害の大半を占めるイノシシに関しては、被害増加の抑制に成功しており、また、サルに関しても被害の縮小に成功している。今後は、市の評価にもあるように、今年度設置した鳥獣被害対策実施隊が中心となって集落住民の被害対策意識を高め、集落住民自らが農地を守っていける集落を確立していくことが重要と考える。（志太榛原農林事務所地域振興課　主幹　三浦孝夫）	被害の大きいイノシシ、シカが目標を達成できなかった。交付金を活用して総合的な対策を実施しているものの、被害が減少していないことから、さらなる対策の強化が必要である。
浜松市（浜松地域鳥獣被害対策協議会）	浜松市	平成27年度	イノシシ シカ サル ハクビシン タヌキ アライグマ アナグマ	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）481頭、（幼）148頭 ・シカ（成）635頭、（幼）13頭 ・サル（成）100頭、（幼）13頭 ・ハクビシン57頭 ・タヌキ33頭 ・アライグマ1頭 ・アナグマ16頭				直接被害を及ぼす個体を減らしたことで農作物被害の減少が図られた。	イノシシ32,266 シカ5,600 サル7,292 ﾊｸﾋﾞｼﾝ・ﾀﾇｷ・ｱﾗｲｸﾞﾏ・ｱﾅｸﾞﾏ5,894	25,812 4,480 5,833 4,715	30,916 8,494 608 4,733	21% ▲258% 458% 99%	イノシシ7,941 シカ2,840 サル9,968 ﾊｸﾋﾞｼﾝ・ﾀﾇｷ・ｱﾗｲｸﾞﾏ・ｱﾅｸﾞﾏ2,213	6,352 2,272 7,974 1,770	6,991 719 23 882	60% 373% 499% 301%	イノシシとシカの被害が大半を占めており、被害金額は昨年比で増加した。野生動物が従来餌場にしていた圃場が、防護柵の設置により侵入できなくなったため、これまで被害が少なかった地域に生息域が変動したこと、花木など販売単価が高い作物の圃場を荒らすようになったことが要因として考えられるが、捕獲実績や目撃報告などから生息頭数や生息域の拡大も推測される。捕獲圧を高めることは必要であるが、闇雲に捕獲頭数を目標とした場合、捕獲しやすい幼獣に偏りが生じ、かえって繁殖を促進し、更に罠にかかりにくい個体を増やしてしまうことや、サルにおいては群れの分裂を招くなど、悪影響を及ぼす可能性がある。地域における生態系を正しく把握し、効果的な捕獲方法を考えることが必要である。また、高齢化が進行している捕獲活動の担い手を増やす対策もあわせて必要である。	妥当な評価である。浜松市では、鳥獣被害防止総合対策事業のうち、緊急捕獲活動支援事業に関しては、市の報奨金制度と一体的に行うため、協議会ではなく市が実施主体となっている。ここ数年の捕獲実績をみてみると、被害の大半を占めているイノシシに関しては、平成21年度～平成23年度の捕獲実績の平均937.3頭に比べて、平成24年度～平成26年度では、1,363頭と大幅に伸びており、被害も減少傾向にある。また、サルに関しても、追い落とし穴式囲いわなの設置などの取り組みにより、同様に92頭から154頭と捕獲頭数が増加しており、被害も大幅に減少していて、これまでの取り組みの成果が伺える。今後は、市の評価にもあるように、捕獲頭数の急激な増加がかえって被害を増加させてしまう危険性もあるため、地域の状況を把握しながら実施していくことが必要と考える。（志太榛原農林事務所地域振興課　主幹　三浦孝夫）	被害の大きいイノシシ、シカが目標を達成できなかった。交付金を活用してさらなる捕獲の強化を進めて欲しい。
湖西市（湖西市鳥獣被害対策協議会）	湖西市	平成27年度	イノシシ ハクビシン	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	有害捕獲活動経費 ・イノシシ（成）62頭、（幼）19頭 ・ハクビシン4頭				直接被害を及ぼす固体を駆除することにより農作物被害の減少が図られた。	イノシシ3,482 ハクビシン1,200	2,437 840	2,873 1,200	58% 0%	イノシシ775 ハクビシン300	543 210	566 300	90% 0%	イノシシについては、鳥獣被害対策の講義、圃場実習等を通して自衛意識の啓発を図るとともに、被害が多い地域での電気柵等の普及、さらには有害鳥獣駆除を重点的に行うことにより、農作物被害の軽減が図られているが、平成28年度に大規模圃場でメッシュフェンスを突破して侵入し被害を及ぼすケースがあり、被害金額が未達成となっている。また、ハクビシンについては、イノシシに比べると被害量等も小規模なことから、電気柵等での対応も進んでおらず、農家等からの捕獲依頼も少ないため、有害鳥獣駆除も積極的には進んでいない。そのため、広報、講習会等により、更なるハクビシンの被害対策を強化していく。	イノシシについては、目標を達成することは出来なかったものの、被害の軽減が見られ、被害対策の効果はあったと推察される。ハクビシンの被害は主に果実を対象に発生することが多い。このため、土を掘り起こす、樹の枝を折る等の被害を発生させるイノシシに比べて、農家に黙認されやすい。被害を黙認し、対策を行わなかった場合、今後、被害が拡大する可能性があるため、協議会が積極的に意識啓発を行うことで、農家が積極的にハクビシンの被害対策も取り組むように指導することを期待する。（森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	イノシシ、ハクビシンとも、再評価においても被害目標を達成できなかった。本交付金を活用し、捕獲以外の対策も実施して欲しい。

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
　2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

５　都道府県による総合的評価

本交付金を活用して事業を実施しているが、被害が減少していない市町が多い。目標を達成しなかった市町に対しては、鳥獣被害対策実施隊の設置促進とともに、被害防止計画目標を見直すことにより、引き続き被害軽減に取り組んでいく